今週の株式相場見通し

＊日経平均 39,000～41,000 円　　TOPIX 2,650～2,800
＊期待材料 3 月期決算企業の権利取りに向けた動き 還元強化 中国の経済対策
＊不安材料 SQ に絡んだ株価の急変動 物価上昇圧力の継続に伴う米利下げ時期の後ずれ

【日本株の上昇基調は継続】先週の日本株市場では、日経平均株価の上昇ペースは鈍化したが、日銀の政策変更への期待から銀行株が買われ、東証グロース市場 250 指数も 7 ヵ月ぶりの高値となるなど、半導体関連一極集中の流れから、物色が広がる動きが見られた。米 NVIDIA の好決算を受けて AI 関連が特に人気化し、AI サービスの PKSHA や NVIDIA の GPU を使ったハイエンドコンピューターを提供するジーデップ、HPC システムズなどの上昇が目立った。半導体関連ではアドバンテスト、レーザーテックなどは上昇一服となったが、レゾナック HD など材料系銘柄やプローブカードの日本電子材料、搬送装置のシンフォニアなど出遅れ銘柄へ物色が向かっている。一部銘柄の過熱感をうまく冷やしながら、主役交代をしつつ高値を維持しており、日本株の上昇基調は継続しているものと思われる。

【SQ に絡んだ値動きに注意】今週は 8 日のメジャーSQ に向けた株価の変動に注意したい。1 月、2 月は SQ に向けて日経平均株価が急騰する展開となり、1 月は SQ 前の 4 営業日で 1,762 円高、2 月は同期間で 705 円高と値動きが大きくなった。昨年 3 月のメジャーSQ にかけた値動きを振り返ってみると、SQ 前の 4 営業日で 696 円高となっており、今週も SQ に向けて先物主導で意外高となる展開が想定される。ただ、昨年 3 月はメジャーSQ 算出日から 5 営業日で 1,613 円安と、大幅に反落しており、今週も先物主導で株高の展開となった場合は、利益確定売りで対処するのが良いものと思われる。3 月期決算企業の権利取り、4～5 月の本決算に合わせた還元強化への期待感から、一段高を期待したいところだが、今週は需給要因による波乱の展開に注意したい。（2 月 29 日現在、松本 直志）

今週の予定

	国内	海外
3/4（月）	2 月マネタリーベース（8:50） 10-12 月期法人企業統計調査（8:50）	［中］全国政治協商会議開幕 ［マレーシア］輸出家具展示会（～7 日）
5（火）	2 月東京都区部 CPI（8:30） 決算：ロック・フィールド（2910）、エイケン工業（7265）、タカショー（7590） 国際オートアフターマーケット EXPO2024（～7 日）	［中］全国人民代表大会開幕 ［中］2 月財新サービス業 PMI（10:45） ［米］2 月 ISM 非製造業景況指数（24:00） ［米］米国大統領予備選挙集中日「スーパーチューズデー」
6（水）	決算：ハウテレビジョン（7064）など 日本心血管脳卒中学会	［欧］1 月小売売上高（19:00） ［米］2 月 ADP 雇用統計（22:15）
7（木）	2 月東京オフィス空室率（11:00） 決算：積水ハウス（1928）、ビューティガレージ（3180）、アイル（3854）など	［中］2 月貿易収支 ［米］1 月貿易収支（22:30） ［欧］ECB 理事会
8（金）	メジャーSQ 2 月景気ウォッチャー調査（14:00）	［欧］10-12 月期 GDP 確定値（19:00） ［米］2 月雇用統計（22:30）
9（土）	第 22 回国際消化器内視鏡セミナー　横浜ライブ 2024（～10 日）	［中］2 月消費者物価指数（10:30） ［中］2 月生産者物価指数（10:30）
10（日）	大相撲春場所（～24 日）	［米］夏時間開始

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間（予定）

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

今週の参考銘柄　大真空　(6962)　東証プライム

	22年3月期 (百万円)	前年比	23年3月期 (百万円)	前年比	24年3月期(予) (百万円)	前年比
売上高	41,306	24.5%	38,430	−7.0%	38,000	−1.1%
営業利益	5,194	148.7%	4,210	−19.0%	1,500	−64.4%
経常利益	6,547	158.5%	5,106	−22.0%	1,700	−66.7%
当期純利益	3,848	214.6%	3,208	−16.6%	1,100	−65.7%
EPS(円)	119.21		99.41		34.08	
配当金(円)	18.25		28		28	

(注)21年11月1日付で1:4の株式分割が実施されており、EPSおよび配当金は遡及修正している

株価(2/29)	905	円
業種	電気機器	
時価総額	328	億円
PER(予想)	26.50	倍
PBR(実績)	0.79	倍
ROE(実績)	9.30	%
配当利回り(予想)	3.09	%
担当	多功	毅

出所:業績に関する数値は決算短信より

【水晶部品の大手企業】電子機器の中で周波数の制御、選択、検出に使われる水晶部品メーカー。通信、車載、民生、産業分野向けに製品を供給。半導体の製造方法を活用したフォトリソ加工、競合他社を上回る大型人工水晶、独自製品の「Arkh シリーズ」の開発によって製品の差別化を推進中。

【業績は底打ち感あり来期の本格回復に期待】24 年 3 月期 3Q 累計（4-12 月）決算は前年同期比 0.3%増収、58.7%営業減益となり、通期は 1.1%減収、64.4%営業減益計画を据え置いている。前期後半から民生機器、通信機器、産業機器向けの在庫調整の影響を受けているが、3Q（10-12 月）の業績には底打ち感が出てきたものと思われる。12 月末の棚卸資産金額は 2Q 累計（4-9 月）決算説明会時に示した 3 月期末の目標まで削減が進展している。来期に向けて期待される需要回復局面では、設備稼働率向上による利益率改善効果に加えて、数量増効果やフォトリソ製品比率向上に伴う製品構成の改善も期待可能と思われる。

【成長基調への回帰を想定】同社をはじめ世界市場をリードしてきた日系水晶部品メーカーは近年、中国、台湾の競合メーカーの台頭による価格競争激化の影響を受けてきたが、ここにきて競争環境は同社優位に変化してきたものと思われる。スマホの5G化を筆頭とした高速通信の普及に伴い、水晶部品には小型化、高周波化、高精度化が求められるようになっているが、従来の機械加工では性能及び歩留まり面の限界が近付いている。このような環境下、同社をはじめ日系数社が先行するフォトリソ加工による水晶部品の需要は右肩上がりで拡大することが見込まれる。また、同社は、フォトリソ加工の競争力に直結する水晶ウエハの大型化で先行しており、今後、コスト優位性を本格的に発揮することが想定される。また、独自製品である「Arkhシリーズ」は米国大手チップセットメーカー、欧米自動車半導体メーカー、スマホ大手メーカーによるサンプル品の評価が進行中であり、本格的な採用と、一段の差別化要因の確立に期待したい。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(2/29)	コメント
物語コーポ (3097) 東証プライム 4,670 円	24 年 6 月期 2Q 累計（7-12 月）決算は前年同期比 17.7%増収、20.8%営業増益。主力の「焼肉きんぐ」が引き続き好調なうえ、認知度向上が寄与した「丸源ラーメン」を中心とした他業態も既存店売上高が伸長。価格改定効果も寄与し、上期は計画を上回る業績で着地。通期は計画外の改装や出店に伴うコスト発生の可能性を踏まえて 14.4%増収、14.8%営業増益計画を据え置き。「丸源ラーメン」は、ブランド力向上を受けて初の駅前型店舗の金町店を昨年 12 月にオープン。（多功 毅）
インテリジェントウェイブ (4847) 東証プライム 1,239 円	クレジットカード決済のネットワーク接続システムやカードの不正検知などの開発・保守、クラウドサービスなどを展開。24 年 6 月期 2Q 累計（7-12 月）決算は前年同期比 2.3%増収、6.1%営業増益、受注は 51.3%増。前年に高採算の大型ハードウェア売上があった反動で 1Q（7-9 月）は苦戦も、クレジットカード会社向けシステム開発や、不正検知のクラウドサービスでユーザー数が増加し会社計画並みに着地。クラウドサービスの受注やストック売上が着実に積み上がっており、今後も堅調な業績推移が見込まれる。（松本 直志）
AGC (5201) 東証プライム 5,353 円	新中期経営計画説明会を開催。26 年 12 月期の目標として、売上 2 兆 4,000 億円（23 年 12 月期実績は 2 兆 193 億円）を想定に、営業利益 2,300 億円以上（同 1,288 億円）、ROE8%以上（同 4.6%）などを挙げた。化学品の増収増益、電子部品の利益率向上、米バイオ CDMO（医薬品開発製造受託）事業の早期再建などを戦略として挙げている。コア事業について、ガラス事業は一定の立て直しができた半面、ディスプレイ事業は前期に減損を計上したものの、今期も業績回復とならなかったため、さらなる事業改革を実施する。（志田 憲太郎）
堀場製作所 (6856) 東証プライム 14,605 円	自動車排ガス測定装置や半導体製造装置向け流量制御装置などを展開。23 年 12 月期通期決算は前年同期比 7.6%増収、3.2%営業増益となり売上、利益とも過去最高を更新した。排ガス測定装置は各国の排ガス新規制導入に伴い需要が継続し、半導体関連は受注残を消化し前年並みの売上を確保。今期は前年同期比 10.5%増収、9.9%営業増益計画。内燃機関への投資継続で排ガス測定の需要が続き、半導体関連も年後半の市場回復を見込んでいる。（松本 直志）
PPIH (7532) 東証プライム 3,525 円	24 年 6 月期 2Q 累計（7-12 月）決算は前年同期比 7.1%増収、31.4%営業増益。国内ディスカウント業態がインバウンド需要もあり好調に推移、総合スーパー事業も人員配置適正化などを通じ収益性改善が順調に進展している。PB 商品の構成比率向上、在庫管理の徹底で粗利益率が向上する一方、既存店の好調に伴い販管費率の低下も進んでおり、営業利益率が向上している。上期業績の上振れを踏まえて、通期計画を 6.9%増収、23.5%営業増益に上方修正。（多功 毅）
ローランド (7944) 東証プライム 4,545 円	電子に特化した楽器メーカー。23 年 12 月期通期決算は 6.9%増収、10.4%営業増益。鍵盤楽器は通期を通して在庫調整の影響があったほか、中国市場の回復遅れなどを受け減収だった。一方で、ギター関連や管打楽器が増収だった。今期は、2.5%減収、4.0%営業減益の計画。コロナで崩れた需給バランスの調整と中国の回復遅れが続く見込みで、今期は調整期間としており、通常の成長期軌道へ回帰するのは 25 年以降と見込んでいる。（志田 憲太郎）

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

ヤマワ・レポート

2024 年 3 月 4 日号(発行 3 月 1 日)

山和証券 調査室

いつもあなたのそばで　頼れる金融機関です

■ ■ ■　山和証券(やまわ)店舗網　■ ■ ■

本店営業部	(03)3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金 町 支 店	(03)3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03)3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03)5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣 鴨 支 店	(03)3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03)3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深 川 支 店	(03)5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂 原 支 店	(0475)25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F

○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社　　金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 190 号
　加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大 1.1990%(ただし約定代金 230,000 円以下の場合は最大 2,750 円)の委託手数料をいただきます。

・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

○山和証券免責事項

・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。

・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行　山和証券調査室